

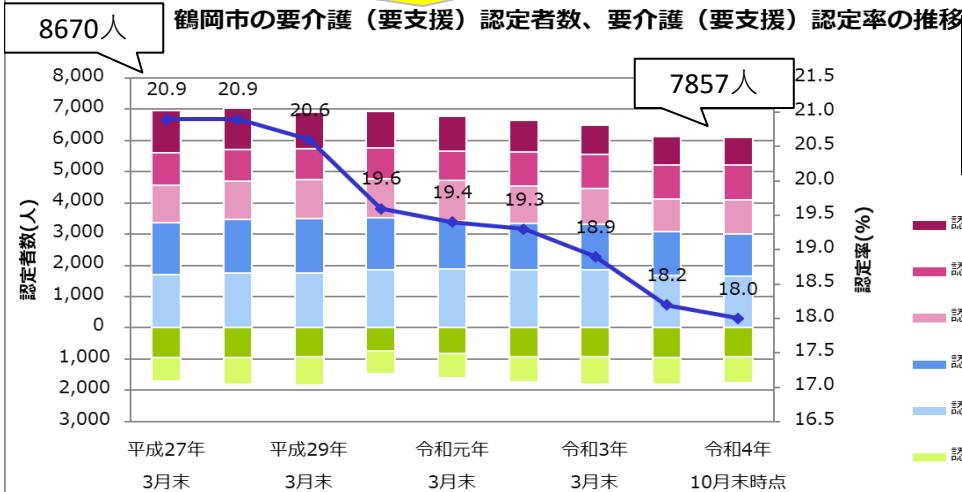
# 令和4年度鶴岡市介護保険NEWS

## 鶴岡市の要介護認定状況及び介護サービス利用状況についての報告

R5.3.16

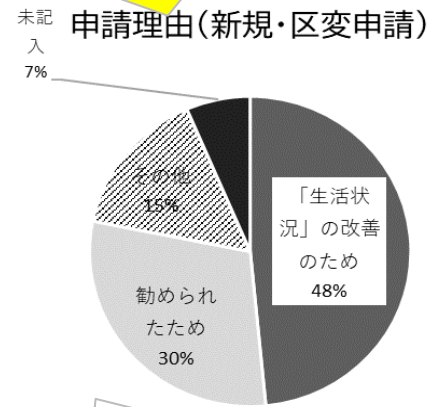
鶴岡市健康福祉部長寿介護課

要介護(要支援)認定者数、認定率ともに減少傾向で良い傾向にある。  
後期高齢者割合が増加する中、高齢になっても元気な方が増えた結果と思われる。

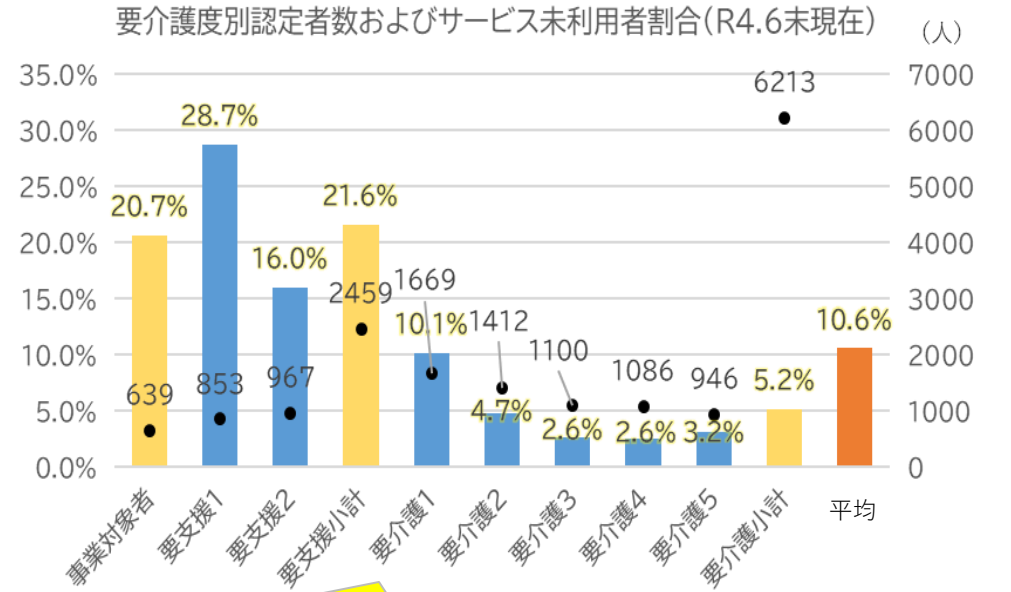


地域	番目	保険者数
山形県内	15番目	35保険者
全国	836番目	1,571保険者

新規・区変申請を行う理由としては「勧められて」が全体の1/3弱で2番目に多かった。



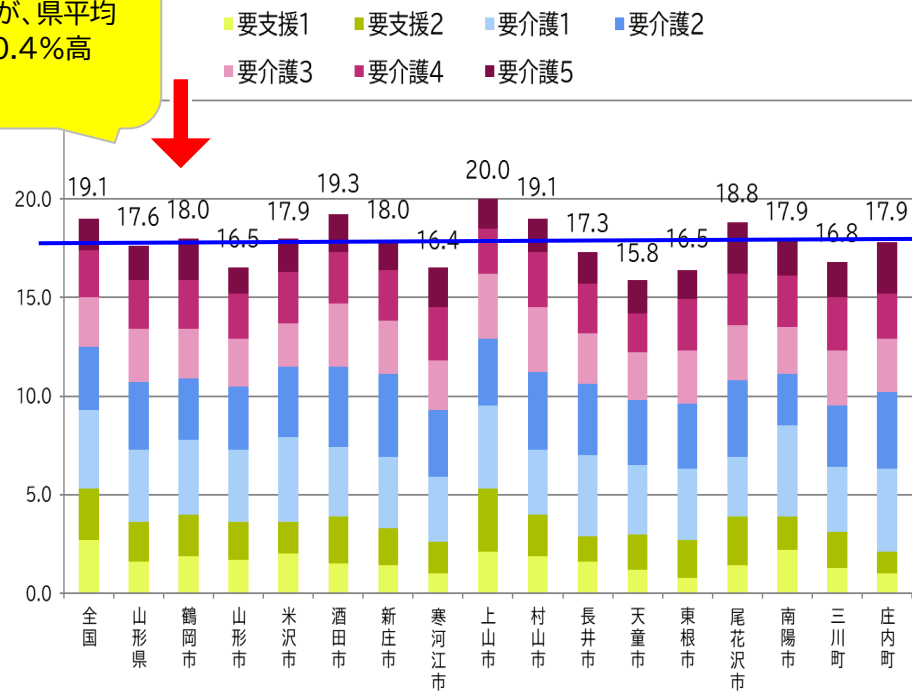
”その他”の内容  
退院後の介護サービス利用のため/施設入所希望/癌末期で在宅介護のため/障害サービスからの移行/認知機能低下、身体機能低下による介護量の増加/要介護度を変更したため/身体機能低下予防のため、リハビリのため/今後のことを考えて



要支援認定を受けている者では5人に1人程度がサービス未利用者であり、すぐに介護保険サービスの利用が必要でない内に認定申請がされている可能性がある。  
今いまの必要のない申請が増えると、すぐにサービス利用が必要な人の認定に時間がかかってしまう。

全国平均よりは低いですが、県平均より0.4%高い。

### 認定率(要介護度別)(令和4年(2022年))

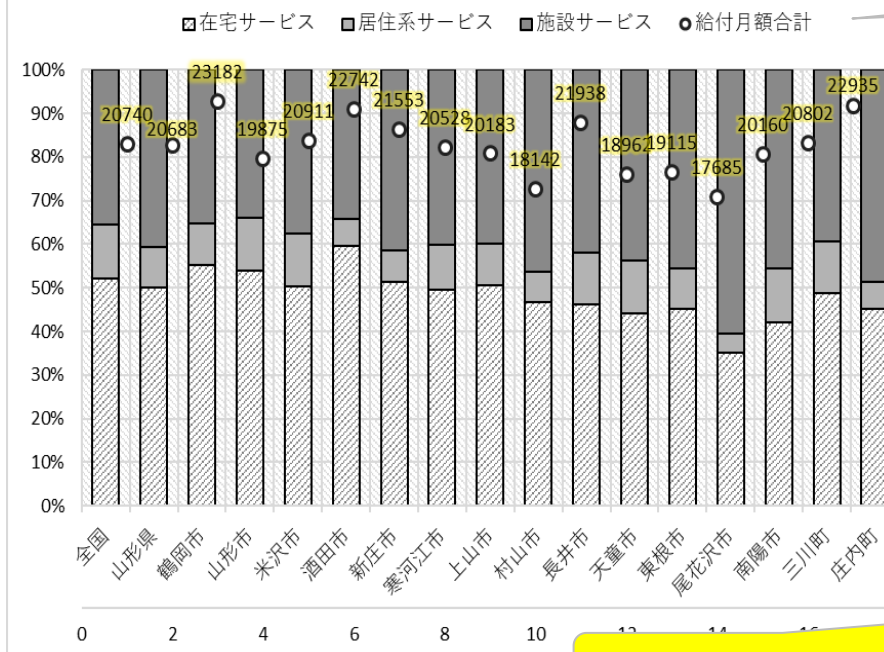


(時点) 令和4年(2022年) 10月末時点データ

(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(令和3,4年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

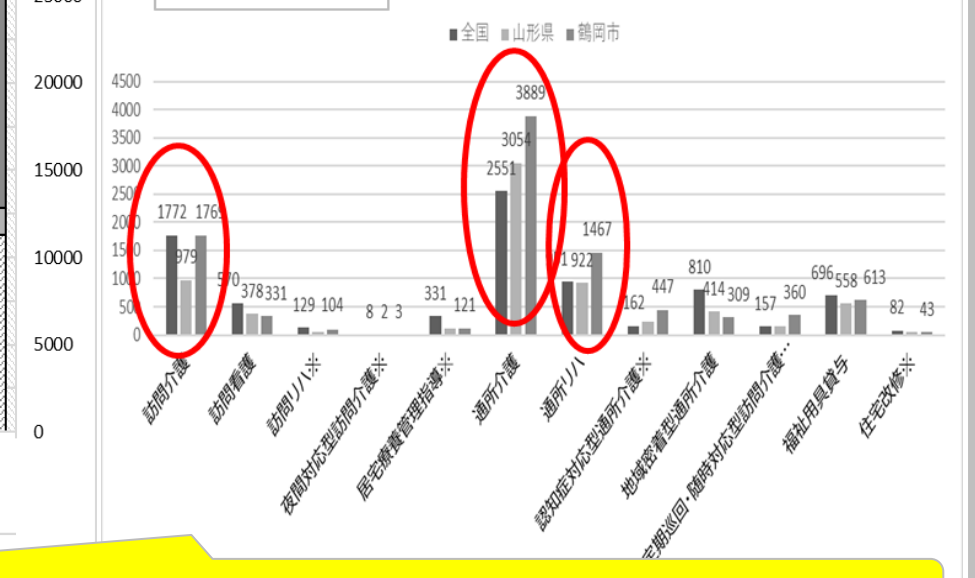
### 介護給付費

1号被保険者一人当たりの給付月額(円)とサービス別利用割合

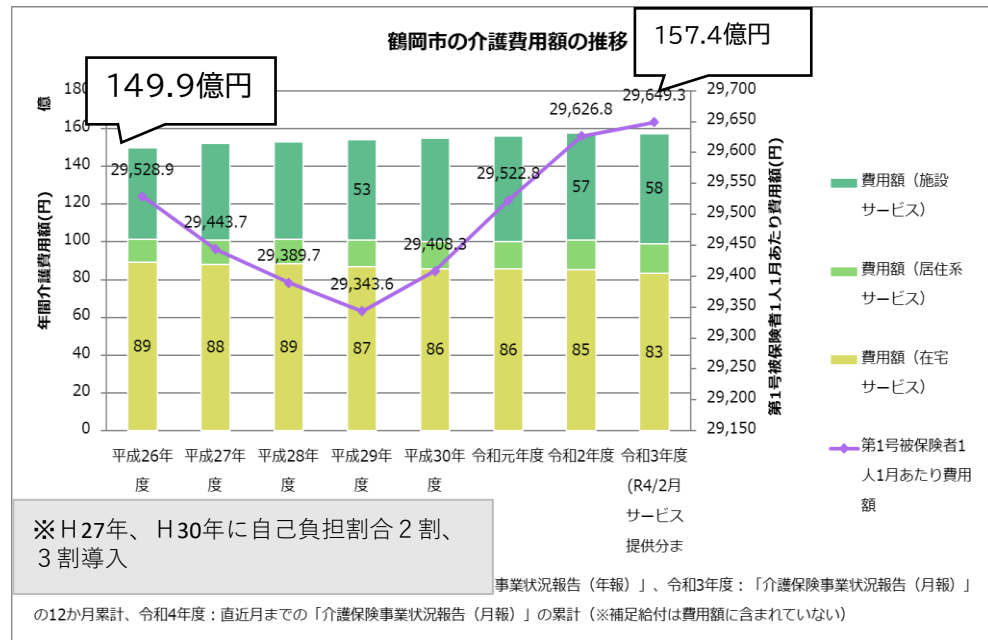


鶴岡市では1号被保険者数に対する給付月額額は県平均より2500円程度高く、県内市の中で最高値となっている。在宅サービスの割合が50%以上となっている。介護保険のめざす「在宅生活の限界点を上げると」という目標から見ると良い傾向とも思われる。

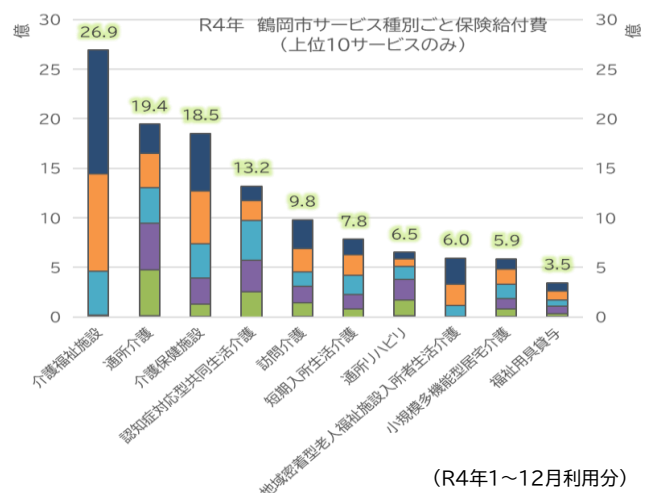
### 在宅サービス 1号被保険者1人あたりの給付月額(円)



サービス別にみると通所介護、訪問介護、通所リハビリの順に多く、いずれも県平均より給付額が多い。

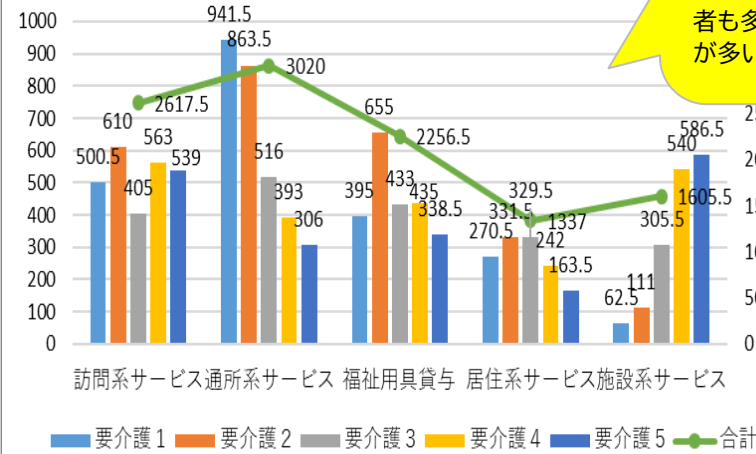


介護費用額(給付費)は増加傾向にあり、平成26年度から令和2年度までに7.5億円増加している。令和4年度8月時点で1人あたりの給付月額が県内5番目に高い。併せて、保険料も県平均より高く、県内の市では一番高い金額となっている。



サービス種別ごとの給付費をみると、介護老人福祉施設、通所介護、介護老人保健施設、グループホーム、訪問介護の順に多くなっている。

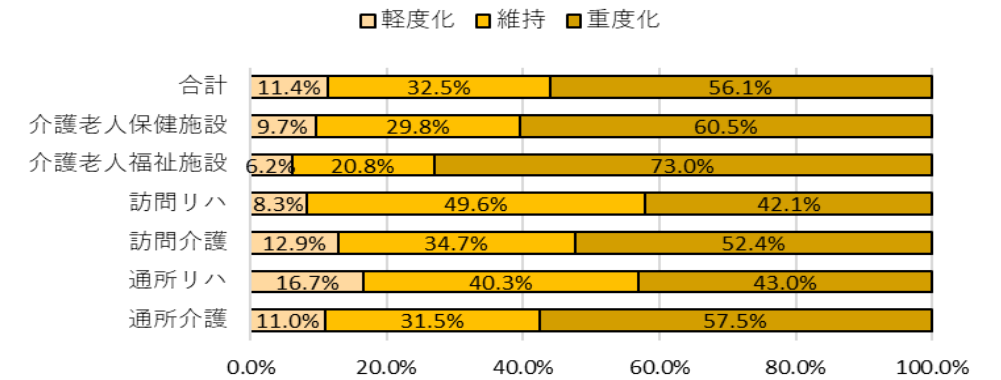
### 鶴岡市 サービス系別利用者数平均 (R4年6月、R4年12月)



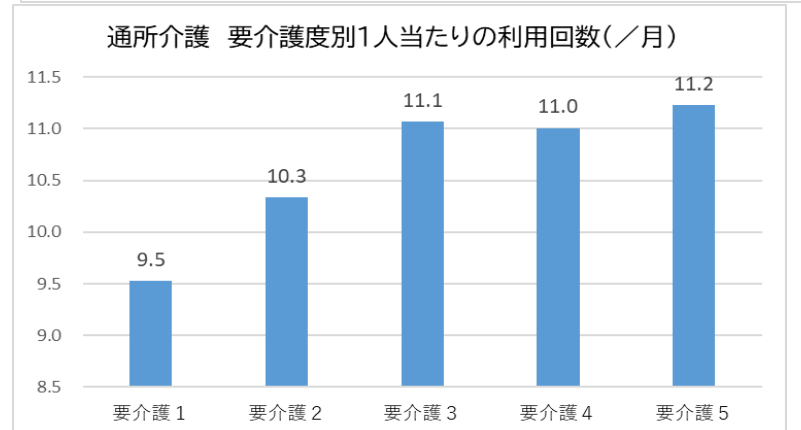
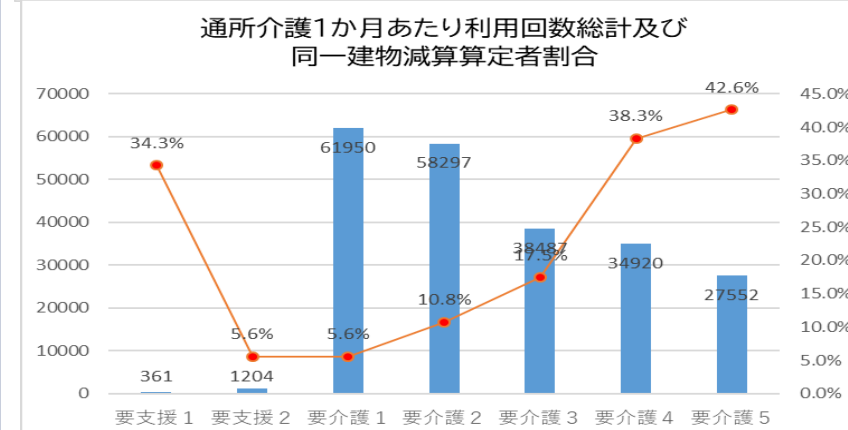
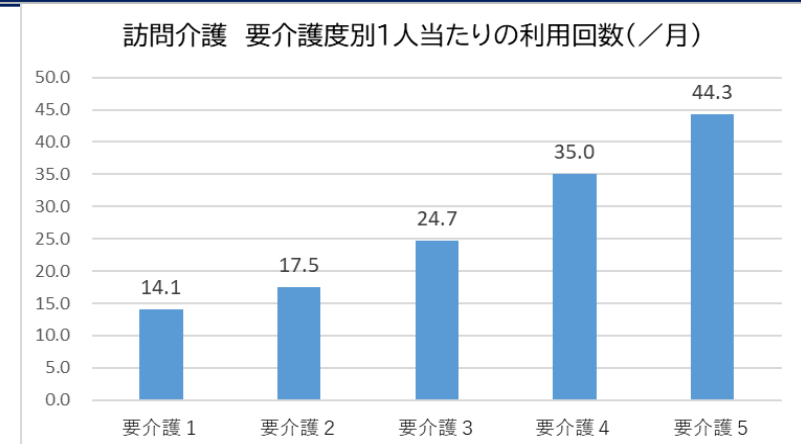
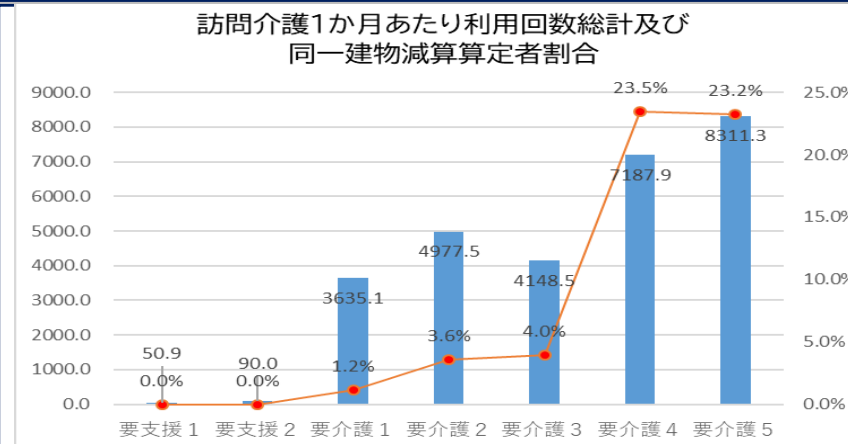
利用者数は、通所系サービスが最も多く、要介護度が低い者の割合が高い。福祉用具貸与の利用者も多く、要介護2が多い特徴がある。

R1年4月にサービス利用していた者の現在の要介護度をみると、重度化している者が多く、次いで維持、改善(軽度化)となっている。訪問リハ・通所リハでは改善(軽度化)・維持の割合が過半数となっている。全体の平均では1割程度の者が改善(軽度化)している。

### R1.4サービス利用者の要介護度の定点比較 (R1.4→R5.3) ※要介護度補正あり



### \* 訪問介護・通所介護 利用状況詳細



訪問介護、通所介護について要介護度別の利用状況をみると、訪問介護は重度要介護者ほど1人当たりの利用回数が多く、それに合わせて全体の利用回数も多くなっている。通所介護では、1人当たりの利用回数は重度要介護者になる程多いが、要介護1・2は利用者数が多いため全体の利用回数が最も多くなっている。訪問介護、通所介護いずれにおいても要介護4・5では同一建物減算の算定者の割合が他の要介護度と比べて高い。要介護4・5における頻回利用の背景には有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅入居者等の利用状況の影響もあると予測される。